



木村隆利さん (前副理事長)を 偲んで

小林昭三

木村隆利さんは、2010（平成22）年11月18日87歳の生涯を閉じられました。

木村さんは、新潟県岩船郡で小学校教員を長年勤められ、戦争体験を基に戦後の民主教育創造に精進してこられました。木村他3人の共著『学んだ生きた教師と子供』（1957年）はそれをよく示しています。

民間教育研究運動に早くから参加され、その県内のサークルの連合体だった「新潟県教師の会」（新潟県教育研究協議会の前身）の創立に尽力され、その役員を長く務められました。

それらを基盤に、「にいがた県民教育研究所を設立する」呼びかけ人の一人になり、その設立の中心的な役割を担われ、1984年12月に研究所が誕生するや事務局長として1994年まで専念され、その貢献は多大なものでした。

2008年度から、私は、長崎明理事長の後継の理事長となりましたが、その前後の数年間において、創設時以来の貢献者である「かけがえのない副理事長のお二人」である、八木三男前副理事長（所長）と木村隆利前副理事長とを、このようにして相次いで失うという、痛恨極まりないめぐりあわせとなりました。

木村さんと一緒に取り組むとしては、日本列島改造計画の最盛時における、聖籠町地域の教育環境の急激な変化を入念に調査したことをまるで昨日のことのように思い起こしております。その時、終始目にした優しい木村さんの素顔と柔らかなまなざしが、私の心の目に深く焼き付いて鮮やかに甦ってまいります。

これまでのそうした万感の想いを込めて、ここから哀悼の意を表させていただきます。どうぞ安らかにお眠りください。

（こばやし あきぞう・にいがた県民教育研究所理事長）